

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2570200374
法人名	社会福祉法人大樹会
事業所名	グループホーム和楽
訪問調査日	平成 19年 7月 6日
評価確定日	平成 19年 7月 18日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ滋賀福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年7月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2570200374
法人名	社会福祉法人大樹会
事業所名	グループホーム和楽
所在地	滋賀県彦根市野田山町1099-1番地 (電話) 0749-30-3387

評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂2階		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	7月18日

## 【情報提供票より】 平成19年6月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有( 87,000+α 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1,334 円			

### (4) 利用者の概要( 平成19年6月10日現在

利用者人数	9名	男性	0名	9名
要介護1	2名	要介護2	1名	1名
要介護3	2名	要介護4	4名	4名
要介護5	0名	要支援2	0名	0名
年齢	平均 81.2 歳	最低	73 歳	最高 88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・松木診療所
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に2階にデイサービス、1階にグループホームを運営。高齢者にとって子供とのふれあいがケアにも効果があることから同敷地内に保育園も運営をする。園児がホームへ訪問することが日課となっており利用者にとっては可愛い訪問者に心が癒される楽しい時間帯である。広い敷地を有しホームの前庭に保育園の運動場、菜園、花壇、池にはアヒルと魚が泳ぎ栗などの果樹も植えられている。庭に出れば子供の元気な動きとはしゃいだ声にふれ野菜や花壇から季節を感じ我が者顔で泳ぐアヒルや魚を見ていると飽きることのない演出がされている。心穏やかな生活をエンジョイされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価において防火防災の備えとグループホーム機能の地域への還元において課題とされていたが以降に非難訓練が定期的に取り組まれている。また地域との共生に於いて理事長が講演などを通じて地域への認知度やホームの理解度を上げる活動をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を年2回行いその取りまとめをしてきたがその作業を通じて評価の意義と認識ができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年度に入って2回開催された。メンバーは地域、家族、民生委員行政などの構成で開催されてきたがホームの運営報告が中心課題であった。これからは委員から意見、提言が出て真の運営推進会議が開催されるような体制づくりを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りは2カ月に1回発行されている。利用者ごとのホームでの生活ぶりは毎月報告されている。その報告用紙は食事や排泄。小遣いの金銭出納。かかりつけ医の月2回の往診結果などなど記入漏れが無いよう書式が決められており家族にとっては安心できる内容である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会が運営する「いこいのサロン」で高齢者が集うサロンに常時利用者が参加している。夏祭りはグループホームと併設のデイサービス、保育園の共催で開催し地域の人々も参加され賑やかな祭りとなっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「障害があっても一人ひとりが地域の中で普通に暮らしながら、人間の尊厳を大切にする生活をめざします・・・」と当初から地域との共生を視野に入れた理念で運営されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員と共有を図る手段には・理事長か年2回全職員に訓話が行われている。・新入職員にはオリエンテーションで理念の徹底が行われている。・管理者が職員対象に定期的に研修会を持つなど職員との共有化に努めている。		平成18年秋に教育指導部を設置されたが理事長の理念の共有や職員のスキルアップに充実した活動を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会が運営する「いこいのサロン」で高齢者が集うサロンの常時参加させて貰っている。またグループホーム主催の夏祭りなどに地域の参加と同時にボランティアの協力の下で盛大に開催している。		散歩の時、地域の文化祭の参加などさらに地域に溶け込む配慮に心がけてほしい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い評価の意義の確認と課題の改善方法についても話し合いを行った。		具体的な改善点をますます増加させていって欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年5月に運営推進会議を開催した。初めての会議で内容的にはグループホームの報告事項が中心であった。次回7月開催予定。	○	今年度に入ってから運営推進会議が開催されたが2カ月に1回の開催と各委員から意見や提言が出るような会議体になるよう努力を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受入を行っている。彦愛犬地域で行うグループホーム部会に行政も参加して貰い連携は取っている。	○	地域包括支援センターと意見交換をしたいとの希望があるが積極的にアプローチしてその実現に向けて努力してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りは2カ月に1回発行されている。利用者家族に対して各利用者ごとに生活ぶりを毎月報告されている。		ホーム便りに対して家族からも返事を求めて双方向の連絡が出来るような仕組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から苦情の窓口を明示している。現在まで苦情や要望などは出ていない。	○	家族からの苦情や要望が出やすい環境つくりの為に家族会を結成してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の身分を安定する為に全員常勤職員待遇としている。新入職員に対して理事長や管理職から新人研修を行っている。また異動時には新旧職員の引継ぎ期間を1カ月間設けている。		職員の異動があったときは利用者家族へ連絡するよう努めてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成18年秋以降に大樹会として教育指導部が設けられ外部の教育も含め、定期的に職員研修を行っている。		外部の研修は職員の希望の受講であっても管理職の了承が出れば出張扱いで研修費用のホーム負担で行われているが職員の自己啓発に有効な仕組みであり継続してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬地域のグループホーム部会で行われている研修会には職員交互に出席している。グループホームとの交歓交流は毎月職員が交代で参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者には必ずホームへ訪問して貰い雰囲気をつんで貰っている。利用予定者の家族へ事前に訪問して生活環境や意向など双方向の確認をして利用者に馴染める雰囲気作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日、お仏壇に向ってお経の導師をしてもらっている人。梅干作りの指導してくれる人。おせち料理を指導してくれる人。障子紙の張替えを指導してくれる人など利用者生活の知恵を伝授してもらいながらの生活と支えあう関係に努めている。		利用者から生活の知恵など学んだ内容は記録しておきホームの財産として残している事は評価すると共に積み上げを図って行ってほしい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の癖や価値観を職員間で共有に努め細かな表情や意思表示の汲み取りに努力している。またそれらをカンファレンス時に全員で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月を全職員で開催し、ケアプランの作成につなげている。またケアカンファレンスには家族の意見を反映させている。家族の訪問時などに意見を聞き出すようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスは3カ月毎に見直しをしている。また利用者が入院された時でも退院後のケアについてかかりつけ医などとも話し合いをし、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要によりかかりつけ医から総合病院や専門病院への紹介。親戚や知人の見舞い、通夜、葬式、法事などに参加の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の往診と年1回の定期健診を受けている。また状態変化時にかかりつけ医に相談して往診や相談にのって貰っている。		治療や投薬が変わった時にはかかりつけ医の診断結果と共にその都度家族へ連絡しているがこのことは家族にとって重要な情報でありこの連絡はぜひ継続して行ってほしい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者がホームで逝かれることは、既に2件の経験を積んでいる。これは本人や家族の意向、関係者の話し合いがなされた結果であり、これからも早い時期からこの関係作りに努めようとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活記録などは利用者には判らない書類棚に保管している。利用者の人格や情報の取り扱いに配慮している。		グループホーム部会などで人権学習や個人情報の取り扱いの学習会などを企画して専門的な知識吸収に努めてほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、菜園、裁縫、またドライブや日用品の急な買い物等に支援している。同敷地内で併設されている保育園の幼児が毎日訪問してくれる事は心癒される生活が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、後片付けなどはそれぞれに参加して貰っている。ホーム前庭の菜園から茄子やいんげん、きゅうりなど季節を感じる野菜が食卓に並ぶ。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴は希望者の要望から午後帯に定着している。また入浴を楽しむために入浴剤を5種類用意している。入浴時間はゆっくりしたペースになるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝夕にお経の導師をしてくれる人。個々の趣味や菜園の支援など。またカレンダー作りやホーム生活写真のアルバム作りなども参加して貰い役割と楽しみ事を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物は順番に参加してもらっている。利用者が使う日用品の買い物は週2回ぐらいの頻度で行っている。外食は月2回行っている。また要望によりドライブに行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けていない。夜間は防犯上鍵を掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームと同建物内のデイと共催で年1回非難訓練を行っている。		消防署などの協力を求めて非難訓練は勿論のこと救急処置なども研修されるよう望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立と同時に水分補給に配慮している。湯茶を好まない利用者にはお茶ゼリーやジュースなどの個々対応をしている。咀嚼力の弱い利用者には個別対応している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間に隣接して12畳の和室があり床の間、仏壇が備えられており。広い間口の吐き出し窓から広い芝生とアヒルや魚が泳ぐ池や保育園の運動場が見える池の周りには栗などの果実や野菜が見える。また同敷地内の園児が毎日訪問してくれる。それらを眺めたり幼児の顔を見るだけでも心が安らいてくる環境である		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室にはホームでの行事の写真が多く貼られている。また理事長からの感謝状がそれぞれ居室に誇らしげに飾られている。		利用者の使い困れた家具の持ち込みがやや少ないように感じられるが生活歴を物語る大切な道具として家族に強く持ち込みを求めている。